

第50期2009年度(平成21年度)事業報告

はじめに

2008年12月1日に新公益法人制度が施行されました。2010年2月末現在で新法人への移行の申請件数は545件。そのうち認定・認可を受けたものが137件。特例民法法人24,317法人全体の僅か2.2%しか国・地方の公益認定等委員会(審議会)に申請しておりません。今後3年10ヵ月で移行の期限を迎えるということ考えると大多数の法人は様子見の状況であるといえます。本会もこの一年間移行に関して具体的な検討には至っておりません。なお引き続き内部検討を進めて参りたいと存じます。

フランクフルト・ブックフェアはテーマ国に「中国」が選ばれ、6号館で会場が隣接している日本としては例年以上に日本文化のプレゼンスを高めるべく努力致しました。例年の如く(社)いけばなインターナショナル・フランクフルトチャプターのご協力を得て、日本の出展各社のブースをいけばなで飾りました。また木下真理子氏の揮毫による「源氏物語」若紫の章を展示し、「漢字」の中国に対して「ひらがな」の美を展開致しました。

本会とフランクフルト・ブックフェア事務局の共催により、大日本印刷の協力を得てプレゼンテーション「Look at the Japanese Book Market」を共同ブースで開催し、言語の壁を乗り越えるための日本の新しい技術を多くの海外の出版関係者に紹介致しました。

本会の共同展示会場では国際交流基金と共催のインフォメーションセンターを設け、また例年の如く(社)出版粋会、(社)自然科学書協会、一般社団法人大学出版部協会および日本児童図書出版協会のご協力を得て、日本の代表的な学術書、児童書の紹介展示を行いました。ブックフェア終了後、昨年度の展示本と合わせて637冊の学術書をサンクトペテルブルク^oのロシア科学アカデミー図書館に『三笠宮文庫』拡充図書として贈呈、またドイツ社団法人日本語普及センター、ハイデルベルグ大学図書館、ニーダブロンバッハ小学校へも図書寄贈を致しました。

「国際ブックフェア関連事業」としての海外出版事情視察団の編成ではフランクフルトブックフェアの開催時期にあわせて視察団を編成、ビジネスコースと合わせて23名が参加されました。

広報活動としては『出版文化国際交流会会報』、*Practical Guide to Publishing in Japan 2010* (英文版・日本出版界の実用ガイド)を発行、内外の関係者に広く配布致しました。またホームページで本会活動を内外に広報致しました。『世界の国際ブックフェア：現場からの報告 No17 2008年度』を2009年4月に刊行致しました。

2009年度の事業計画では翻訳出版の支援事業を具体的にスタートさせました。まず6月30日にレッスン・ドイツ連邦共和国翻訳賞を受賞された長谷川博隆先生にテオドル・モムゼン著の『ローマの歴史』の翻訳に関する講演会を日本出版クラブで日本書籍出版協会との共催で開催致しました。

そしてフランクフルト・ブックフェアの会期中に、「日独翻訳出版ワークショップ」を在フランクフルト日本国総領事館、独立行政法人国際交流基金ケルン日本文化会館と当会の共催で実施致しました。なおこの翻訳出版の支援事業は、2010年度、2011年度と3ヵ年に亘って継続する予定です。

1993年より導入されました納本制度は、会員の皆様のご理解、ご協力を頂き確実に進展しており、心より感謝申し上げます。蓄積された特別賦課会費は、わが国の出版文化の紹介事業のため有効に活用させて頂きますので、引き続きのご協力をお願い申し上げます。

今日、年間で100件にも及ぶ国際ブックフェアが世界各地で開催されておりますが、本会の参加はそのごく一部にすぎません。多くの国々から外務省あるいは、在日各国大使館を通じて、日本の参加が強く要請されております。本会としては、外務省の協力のもと、独立行政法人国際交流基金との共催事業として国際ブックフェアへの参加に、また日本図書展の開催に向かって更なる努力を重ねていく所存であります。

会員の方々、関係省庁、諸団体の皆様のご支援ご協力に深謝いたしますと共に、今後とも変わらぬご後援を心よりお願い申し上げます。

2010年6月7日

社団法人 出版文化国際交流会
会長 江草忠敬

I. 「事業委員会、財政・公益法人制度改革対策委員会」の運営

両委員会、特に財政・公益法人制度改革対策委員会では、本年度具体的な検討を実施していないが、諸情勢、他の法人の動きなどを参考に引き続き内部検討を進めていくこととした。

II. 広報活動

1. 『出版文化国際交流会会報』の発行

187号～192号、B5判、発行:187-190号一各1,000部、191-192号一各900部

[掲載内容]

- 187号：2008年度事業報告・決算報告、第15回ソウル国際ブックフェア報告、ご案内—講演会、第16回東京国際ブックフェア
- 188号：第54回ワルシャワ国際ブックフェア報告、ご案内—第61回フランクフルト・ブックフェア
- 189号：第16回東京国際ブックフェア参加記、寄稿—カリブ海の風、長谷川博隆先生の講演原稿、報告とお知らせ—アルゼンチン文学作品の翻訳助成、理事・評議員会報告、第61回フランクフルト・ブックフェア予告、第11回モスクワ・ノン/フィクション国際ブックフェア予告、新スタッフ紹介
- 190号：第61回フランクフルト・ブックフェア報告、第61回フランクフルト・ブックフェアとイタリア視察記、報告とお知らせ—ロシアの作家オリガ・スラヴニコワ氏の来日紹介、第62回フランクフルト・ブックフェア出展募集、理事・評議員会の開催予告
- 191号：第61回フランクフルト・ブックフェアにおける日独翻訳出版ワークショップ報告、第11回モスクワ・ノン/フィクション国際ブックフェア報告、お知らせ—*Practical Guide to Publishing in Japan 2010*の発行予告
- 192号：2010年度事業計画・収支予算、第19回ニューデリー国際ブックフェア報告、お知らせ—第17回東京国際ブックフェアの本会出展内容予告

2. 『世界の国際ブックフェア:現場からの報告 No. 17 2008年度』の発行

B5判、本文78頁、発行:700部

本会が2008年度に参加した各国際ブックフェアの現状を派遣専門家がレポートした冊子。今回のNo. 17では表紙デザインを一新し、以下の9件のレポートを掲載した。会員や関係機関へ配布した。

[掲載内容]

- 第14回ブックワールド・プラハ (報告:平井公子)
- 第14回ソウル国際ブックフェア (報告:梶原千歳)
- 第53回ワルシャワ国際ブックフェア (報告:落合祥堯)
- 第15回東京国際ブックフェア (報告:PACE事務局)
- 第15回東京国際ブックフェア参加記 (寄稿:ガビヤ・ズカウスキエネ)
- 第20回サンパウロ国際ブックフェア (報告:栗田明子)
- 第60回フランクフルト・ブックフェア (報告:梶原千歳)
- 第10回ノン/フィクション国際ブックフェア (報告:三吉雄己)
- 第10回ピリニウス国際ブックフェア (報告:江草忠敬)

3. *Practical Guide to Publishing in Japan 2010*

英文版・日本出版界の実用ガイド

A5判変型、本文60頁、発行:6,000部

独立行政法人国際交流基金との共同出版

日本出版界の概要と出版物の輸出入統計、東京国際ブックフェアの実情、前年度のベストセラー
図書の紹介等を含む日本出版界の過去一年の動向、翻訳出版権・図書の売り込みや購入等の商
取引につながる基本情報、主要な関連機関、団体の連絡先等、外国の出版関係者に有用な情報
を英文でコンパクトに紹介した冊子。

主に本会が参加する各国の国際ブックフェアで配布(各 200～500 部)。在外公館、国際交流基金
海外事務所での現地配布資料、来日外国出版人への啓蒙資料としても利用されている。

4. 『フランクフルト・ブックフェア』(手引書)

B5 判、本文 13 頁、発行:200 部

世界最大規模のフランクフルト・ブックフェアを、その歴史から最新の開催状況まで、コンパク
トに日本語で説明した小冊子。会員、FBF 出展社、FBF 視察団参加者、関連機関へ配布。

[掲載内容]

フランクフルト・ブックフェアの概要、歴史と役割、テーマ国、会場構成、資料の収集、日本か
らの参加状況

5. 出版文化国際交流会ホームページによる広報

ホームページ上で本会の活動を紹介。

前項の会報、*Practical Guide to Publishing in Japan 2010* 等の PDF 版、会員社、On-line 書
店ホームページへのリンク等の基本情報とともに、国際ブックフェア開催日一覧や派遣専門家
の最新報告、さらに海外出版事情視察団等の企画案内を行っている。

<http://www.pace.or.jp>

Ⅲ. 国際ブックフェアへの参加

1. 出展参加

(1) 本会が参加した国際ブックフェアの名称・会期・派遣専門家 [敬称略]

- | | |
|--|-------------------------|
| 1. 第 35 回ブエノスアイレス国際ブックフェア | 2009. 4. 20～5. 11 |
| 2. 第 16 回ブダペスト国際ブックフェア | 2009. 4. 23～26 |
| 3. 第 22 回テヘラン国際ブックフェア | 2009. 5. 7～16 |
| 4. 第 15 回ソウル国際ブックフェア(日本年)
石川晴彦、梶原千歳(PACE 事務局) | 2009. 5. 13～17 |
| 5. 第 54 回ワルシャワ国際ブックフェア
橋元博樹(東京大学出版会) | 2009. 5. 21～24 |
| 6. 第 6 回テッサロニキ国際ブックフェア | 2009. 5. 28～31 |
| 7. 第 16 回東京国際ブックフェア | 2009. 7. 9～12 |
| 8. 第 61 回フランクフルト・ブックフェア
石川晴彦・梶原千歳・佐藤佳苗(事務局)、視察団を編成 | 2009. 10. 14～18 |
| 9. 第 54 回ベオグラード国際ブックフェア | 2009. 10. 26～11. 1 |
| 10. 第 11 回国際知的図書展 non/fiction(モスクワ)
宮田昭宏(Office Ray 代表) | 2009. 12. 2～6 |
| 11. 第 20 回ドーハ国際ブックフェア(カタール) | 2009. 12. 30～2010. 1. 9 |
| 12. 第 19 回ニューデリー国際ブックフェア
楠田武治(小学館) | 2010. 1. 30～2. 7 |
| 13. 第 19 回ハバナ国際ブックフェア
江草忠敬(PACE 会長) | 2010. 2. 11～21 |
| 14. 第 11 回ビリニユス国際ブックフェア | 2010. 2. 18. ～21 |

15. 第16回マスカット国際ブックフェア(オマーン) 2010.2.23～3.5
 16. 第28回リヤド国際ブックフェア(サウジアラビア) 2010.3.2～12
 浦山 毅(東京電機大学出版局)
 17. 第8回バンコク国際ブックフェア(招待国：日本) 2010.3.26～4.6
 梶原千歳(PACE 事務局)

- [注] 4. と17. は「日本」がテーマ国として開催された。
 5. と16. の派遣専門家は現地で日本の出版事情についての講演を行った。
 7. は本会の独自事業、その他はすべて国際交流基金との共催事業
 10. の派遣専門家は日露作家対談のモデレーターを務めた。

2009年度の主な国際ブックフェアの開催状況

国際ブックフェア名	国数	出展数	入場者数	会場面積
第54回ワルシャワ国際ブックフェア	31	500	52,000	10,000 m ²
第15回ソウル国際ブックフェア	19	885	110,559	14,733 m ²
第16回東京国際ブックフェア	30	800	64,844	20,000 m ²
第61回フランクフルト・ブックフェア	100	7,314	290,469	171,790 m ²
第11回国際知的図書展 non/fiction	18	282	29,324	5,430 m ²
第19回ニューデリー国際ブックフェア	15	1,199	200,000	42,000 m ²
第28回リヤド国際ブックフェア	23	366	2,000,000	14,693 m ²
第8回バンコク国際ブックフェア	18	423	1,600,000	20,000 m ²

(派遣専門家の報告書による)

(2) 第16回東京国際ブックフェア

会 期：2009年7月9日～12日
 会 場：東京ビッグサイト(東京国際展示場)
 主 催：(株)リード エグジビジョン ジャパン
 東京国際ブックフェア実行委員会
 参 加 国：30カ国
 出 展 数：800
 会場面積：20,000 m²
 入 場 者：64,844(前年比6%増)

本会は実行委員会の構成8団体の一員として参加した。本会のブースでは昨年のリトアニアに続き、中米のカリブ海に浮かぶキューバに焦点を当て、同国の出版文化を紹介した。展示にあたっては在日キューバ大使館の全面的な協力を得て、132点の図書に加え、同国の写真、ポスター、関連グッズの紹介を行ない、一部は販売した。

(3) 第15回ソウル国際ブックフェア

会 期：2009年5月13日～17日
 会 場：韓国総合展示場(COEX)
 主 催：大韓出版文化協会
 参 加 国：29
 出 展 数：885
 会場面積：14,733 m²
 入 場 者：110,559
 テーマ国：「日本」

昨年の「中国」に続き、今回は「日本」がテーマ国となった。日本書籍出版協会を中心に14出版団体により「SIBF 2009 日本年実行委員会」が組織され、国際交流基金が共催、在韓国日本大使館公報文化院が後援した。495 m²の日本館を設置し、323社2,800点を分野別に展示した。本会は国際交流基金と日韓相互で発行された関係図書を中心に633点を展示、また期間中は主にインフォメーション・デスクの設置・運営に関わった。販売については教保文庫が担当、展示図書の原則注文、一部販売が行われた。期間中は作家やマンガ家のサイン会、書道、日本舞踊、三味線のワークショップ、着物の着付け教室、紙芝居、読み聞かせ等のイベント、更に各種セミナーも実施され、多彩なプログラム構成となった。期間中に実施された来場者へのアンケートでは473名の回答が得られ、総合評価では8割が「満足」の結果を示した。

(4)第61回フランクフルト・ブックフェア

会 期： 2009年10月14日～18日
会 場： フランクフルト国際見本市会場(メッセ・ゲレンデ)
テーマ国： 中国
主 催： ドイツ出版社・書籍販売店協会
参 加 国： 100カ国/地域
出 展 数： 7,314(ドイツ:3,312、外国:4,002)(前年比-0.75%)
出 点 数： 401,932(うち新刊:123,823)
会場面積： 171,790 m²
入 場 者： 290,469(前年比-2.9%)

世界的な経済不況が長引く中で開催された第61回フランクフルト・ブックフェアは出展社数、入場者数ともに前年比、僅かに減少した。ブックフェア総裁のJuergen Boos氏の言によれば、英米語圏を除く地域は不況とはいえ出版市場は比較的勢いがあり、具体的に数字にも表れているとのことである。日本の出展社は不況を感じつつもブックフェア終了後のアンケートでは今回の自社ビジネス評価について「良い」との回答が多かった。

今回のテーマ国には日本、韓国、インドに続くアジア4番目の国として中国が選ばれ、日本会場の隣に巨大なブースを設けた。出展社274、出張者2,000人、作家50名、展示図書7,600点、500を超えるイベントが実施され、文字通り国を挙げての文化国家「中国」をアピールする取り組み内容であった。一方、言論・出版の自由という観点から中国国内における問題点が提示されるフェアでもあった。

日本の出展状況

本会では、例年どおり国際交流基金と共催で6号館1階に16 m²の日本インフォメーション・センターを設け、来場者への応接にあたりと共に、出版4団体(自然科学書協会、出版粋会、大学出版部協会、日本児童図書出版協会)の共同展示場(32 m²)を設置、各分野の図書の紹介に努めた。各団体の出展数内訳：自然科学書協会(32社62点)、出版粋会(31社60点)、大学出版部協会(29部55点)、日本児童図書出版協会(35社72点)、計127社(部)249点を昨年度分[129社(部)249点と併せて展示した。

日本インフォメーション・センター周辺にはオーム社、学習研究社、講談社、小学館、大日本印刷、日本著作権輸出センター、リード・エグジビションジャパンの7社が単独出展し、日本会場を構成した。昨年が続いて今回も(社)いけばなインターナショナルの協力を得て、各ブースにいけばなを飾り、日本としての統一感を醸しだした。また3号館のコミックセンターには角川書店、白泉社が出展した。本会が組織する上記出展社以外に学術・専門書関連の出展社(STM)が集まる4号館に7社、児童書部門の3号館に2社、さらにエージェント・センターへの登録出展社を含め、日本からの出展社数は計44社となる(英米語圏の8号館出展社は日本からの出展としてカウントされない)。

プレゼンテーション「Look at the Japanese Book Market」

大日本印刷（DNP）のご協力を得て、FBF事務局と交流会の共催で10月15日（木）15:00～16:00、本会の共同ブースでプレゼンテーション「Look at the Japanese Book Market」を実施した。これは日本の出版マーケットに関心のある世界の出展社、約70社を集め、日本のマーケットを紹介し、出展社との交流を広げる一助にさせていただくという企画で、参加者から好評を博した。講師は大日本印刷GMM本部の福永毅氏。

日独翻訳出版ワークショップ

翻訳出版支援事業の一環として、ケルンの日本文化会館（国際交流基金）、在フランクフルト日本総領事館と交流会の共催で、4.Cのセミナールームを使い、10月16日（金）11:00～13:30日独翻訳出版ワークショップを実施した。参加者は日独の関係者50名、非公開で実施した。テーマは「ドイツ語圏において日本語書籍を出版する際に立ちはだかる阻害要因とその克服」。司会はケルン日本文化会館館長の上田浩二教授、パネリストとして日本から鳴中事務所代表の嶋中行雄氏、ドイツ側からBe. bra社のMichael Zimmermann氏、翻訳家のAnnelie Ortmanns氏、Ursula Graefe氏、中山-Ziegler公子氏がそれぞれ問題点の指摘と提言を行い、次いで参加者を交えた議論を行った。第1回目にしてはかなり中味のある議論ができたこと参加者の評判は良かった。次回はさらに対象を他のヨーロッパ言語に広げて実施する予定である。

ワークショップ終了後、総領事公邸に移動、日本総領事主催のレセプションが開催された。

特別展示

二玄社のご協力を得て、今年のソウル国際ブックフェア「日本年」で好評を博した書家、木下真理子氏の作品を用いて共同展示場の壁面を利用した特別展示を行った。作品は源氏物語「若紫」の章の抜粋を揮毫、その9カ国語訳をパネル展示した。木下氏の参加が急遽決まり、パフォーマンスについても日本総領事館、関係団体と協議、フランクフルト大学構内と日本総領事公邸にて実施。また最終日、日本共同展示場内で書のワークショップも実施した。

ハッピーアワー(Happy Hour Japan)

出展者の中にすっかり定着し、毎回200名をこえる関係者が集う本会主催のハッピーアワーは、フェア開催3日目の10月16日（金）17:00より実施された。

来年の会期は2010年10月6日（水）～10日（日）、テーマ国はアルゼンチンと発表されている。

(5)第8回バンコク国際ブックフェア

会 期：2010年3月26日～4月6日
会 場：クイーン・シリキット国立会議センター
主 催：タイ国出版社・書籍販売業者協会
参 加 国：18
出 展 数：423
会場面積：20,000 m²
入 場 者：1,600,000
テーマ国：「日本」

昨年のフランスに続き、日本がテーマ国となり、日本からは初の参加となった。日本書籍出版協会を中心に実行委員会が編成され、本会もその一団体として協力した。共同ブース(90 m²)では、約550冊(うち、本会は国際交流基金とともに87冊を出品)の図書展示に加え、紀伊國屋書店が販売を担当、またイベントスペースが設けられ、参加型ワークショップが行われた。これとは別に、コミックの原画や風呂敷などを展示する文化展示スペース(60 m²)を設置、隣接する特設ステージでは、日本の作家のサイン会やトークショーが開かれた。開催期間が長いとはいえ発表された入場者数には圧倒されるが、現地報道機関の扱いも290余件と他に例を見ない内

容であり、特にシリントーン王女ご臨席の開会式の模様がテレビで生中継されたことは特筆に値する。なお、日本年の主催は日本書籍出版協会、共催は本会、国際交流基金。

2. 国際ブックフェア関連事業

(1)「フランクフルト・ブックフェア出展社・世話人会」の運営

諮問機関として世話人5名と事務局による運営、2009年7月23日(木)、委員4名(欠席1名)の出席を得て第61回同ブックフェアへの日本の参加概況について報告・検討を行った。また2009年12月4日(金)には新たに3名が加わり、拡大委員会として開催した。

日本出展社からのアンケート結果をもとにした同ブックフェアの総括、更に次回に向けた出展概況について討議した。後日、竹生修己(オーム社)、加治屋文祥(小学館)の両委員と交流会の石川晴彦専務理事連名による要請文をフランクフルト・ブックフェアのユルゲン・ボース総裁へ送付した。

[世話人会委員—拡大委員会]

竹生修己(オーム社)、加治屋文祥(小学館)、吉田ゆりか(日本著作権輸出センター)、キム・ベデヌ(講談社)、沼田雄一(学習研究社)、鹿嶋明(鹿嶋国際著作権事務所)、今井晃(大日本印刷)、石川晴彦(出版文化国際交流会)[順不動、敬称略]

(2)海外の出版事情視察団の編成

- | | |
|----------------------------|--------|
| 1)「フランクフルト・ブックフェア視察コース | 参加：11名 |
| 2)「フランクフルト・ブックフェア・ビジネス」コース | 参加：12名 |

(3)ロシア科学アカデミー付属図書館「三笠宮文庫」への図書寄贈

一昨年度から3ヵ年計画に従い、同文庫への図書寄贈を実施しているが、フランクフルト・ブックフェアの本会共同ブースへ出展協力をいただいている出版3団体(自然科学書協会、出版粋会、大学出版部協会)の図書、177冊は2008-9年度の過去2年分と一緒に送付、寄贈した。

IV. 関連活動と報告事項

1.「第43回造本装幀コンクール」を後援

本会では1985年(昭和60年)の第20回より同コンクールに後援団体として参加しているが、今回は出版文化国際交流会賞に(株)淡交社刊行の『清水三年坂美術館コレクション京七宝 並河靖之作品集』を選定した。入賞作品30点はフランクフルト・ブックフェアでの展示後、ライプツヒヒ・ブックフェア開催時(2010年3月)に実施の「世界で最も美しい本展」のコンクールに出品された。今回は残念ながら日本の出品図書の受賞はなかった。

2. 講演会の開催

古典的大著として知られるテオドル・モムゼン著『ローマの歴史』の翻訳をもって、2009年度レッシング・ドイツ連邦共和国翻訳賞を受賞された名古屋大学名誉教授の長谷川博隆先生をお招きし、その翻訳に関する講演会を6月30日(火)日本出版クラブ会館で日本書籍出版協会との共催で開催した。これは今年度より本会が進める翻訳出版支援事業の一環として、またフランクフルト・ブックフェアの期間中に開催された「日独翻訳出版ワークショップ」に先立つ国内企画との位置づけで実施したが、約30名の参加を得て好評を博した。

3. 納本制度の継続導入

1993年3月より導入された「納本制度」では、本年度は41社のご協力により5,902点、総額7,834,695(予算7,120,000)円が特別賦課会費として納付された。

4. その他

国際子ども図書館を考える全国連絡会運営委員および学校図書館整備推進会議加盟団体として、それぞれの事業推進に参画した。

5. 会議記録

総会 2回

2009年6月1日(月) 2008年度事業報告、2008年度決算報告

2010年3月11日(木) 2010年度事業計画案、2010年度収支予算案

理事会 4回

2009年6月1日(月) 2008年度事業報告、2008年度決算報告

2009年9月29日(火) 2009年度上半期実施事業報告

2009年12月17日(木) 2009年第3四半期事業報告(9～12月)

2010年3月11日(木) 2010年度事業計画案、2010年度収支予算案

評議員会 4回

2009年6月1日(月) 2008年度事業報告、2008年度決算報告

2009年9月29日(火) 2009年度上半期実施事業報告

2009年12月17日(木) 2009年第3四半期事業報告(9～12月)

2010年3月11日(木) 2010年度事業計画案、2010年度収支予算案

6. 他団体との交流・参加

1. 日本・いけばな芸術展(4月1日)
2. 東京国際ブックフェア特別説明会(4月13日)
3. 日本対外文化協会研究会(4月14日、5月27日、6月29日、7月30日)
4. 日本雑誌協会総会後の懇親会(4月21日)
5. 第43造本装幀コンクール審査会(5月8日)
6. 第48回全出版人大会(5月11日)
7. 国際子ども図書館を考える全国連絡会議(5月21日、6月22日、2010年3月1日)
8. 学校図書館整備推進会議(5月22日)
9. 出版平和堂委員会(5月22日)
10. 第1回全国キューバ友好連帯集会(5月23日)
11. 日本ペンクラブ第53回総会(5月25日)
12. レッティングドイツ連邦共和国翻訳賞(5月26日)
13. 国民読書年問題等打合せ(5月28日)
14. 大学出版部協会総会(5月29日)
15. 出版厚生年金事業説明会(6月2日)
16. 三笠宮妃お誕生会(6月4日)
17. 日本出版クラブ理事会・評議員会(6月10日)
18. 箱根芦ノ湖国際聖道場理事会(6月19日)
19. 中近東文化センター除幕式(6月21日)
20. 文化産業信用組合通常総会(6月22日)
21. エジプト大使館海のエジプト展(6月30日)
22. リトアニア大使館写真展(7月6日)
23. モンゴル国バヤル首相歓迎会(7月15日)
24. 日本出版クラブ納涼の夕べ(7月23日)
25. 出版平和堂合祀者選考会(7月28日)
26. 第41回出版平和堂合祀祭実行委員会(8月27日)
27. 第39回「野間読書推進賞」選考委員会(9月14日)

28. 渡辺淳一直木賞受賞 40 周年記念会 (9 月 17 日)
29. ラトビア音楽協会創立 5 周年記念レセプション (9 月 19 日)
30. いけばなインターナショナル本部最高会議 (9 月 25 日)
31. 出版平和堂第 41 回合記者顕彰会(10 月 2 日)
32. 国際交流基金賞・国際交流奨励賞授賞式(10 月 6 日)
33. 中近東文化センター開館 30 周年記念式典(10 月 23 日)
34. 東海大学設立 67 周年記念式典(11 月 1 日)
35. 出版平和堂委員会(11 月 5 日)
36. 野間読書推進賞贈呈式(11 月 6 日)
37. 日本対外文化協会研究会(11 月 11 日、12 月 1 日)
38. ドイツ文化会館「独仏共通教科書と日中韓の試み」(11 月 24 日)
39. 日本出版クラブ理事会 (11 月 25 日)
40. 日本ペンクラブ「ペンの日」(11 月 26 日)
41. 日本文学出版交流センター「仏教と文学翻訳」シンポジウム(11 月 28 日)
42. 三笠宮殿下お誕生会(12 月 2 日)
43. 第 57 回菊池寛賞(12 月 4 日)
44. 大学出版部協会年末懇親会(12/4)
45. 成田山出版講(12/9)
46. キューバ・日本外交樹立 80 周年記念講演会(12/14)
47. 習近平国家副主席歓迎レセプション(12/15)
48. 造本装幀コンクール実行委員会 (12 月 21 日)
49. 日本出版クラブ新年名刺交換会 (2010 年 1 月 6 日)
50. 裏千家初釜式 (1 月 16 日)
51. 日本出版クラブ経営委員会 (1 月 22 日)
52. 青少年読書感想文全国コンクール表彰式 (2 月 5 日)
53. 日本ラトビア音楽協会総会 (2 月 7 日)
54. 日本文化による国際貢献を考える研究会 (2 月 24 日)
55. 読書感想画中央コンクール表彰式 (2 月 26 日)
56. ジャーナリスト会議 2010 (3 月 3 日)
57. 唐家*歓迎レセプション (3 月 12 日) (*王編に施)
58. 三島由紀夫没後 40 周年シンポジウム [ベルリン] (3 月 19 日)

7. 会員の異動(2010 年 3 月 31 日現在)

正会員(現会員数: 77 社)

特別会員(現会員数: 18 社)

入会	2009 年 12 月 1 日	株式会社サン・フレア	(特別会員)
	2009 年 12 月 1 日	嶋中事務所	(特別会員)
退会	無し		

自 2009年 4月 1日

至 2010年 3月31日

2009年度決算報告書

東京都千代田区猿楽町1丁目2番1号

新日貿ビル

社団法人 出版文化国際交流会

貸借対照表

平成22年3月31日現在

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	8,157,144	13,151,212	△ 4,994,068
未収入金	2,670,000	2,430,000	240,000
仮払金	2,694,499	2,657,113	37,386
流動資産合計	13,521,643	18,238,325	△ 4,716,682
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
退職給与引当預金	0	12,682,978	△ 12,682,978
創立60周年記念事業預金	3,004,660	9,439,291	△ 6,434,631
特定資産合計	3,004,660	22,122,269	△ 19,117,609
(2) その他固定資産			
什器備品	311,194	582,901	△ 271,707
敷金	1,632,027	1,632,027	0
定期積金	330,000	690,000	△ 360,000
出資金	500,000	500,000	0
その他固定資産合計	2,773,221	3,404,928	△ 631,707
固定資産合計	5,777,881	25,527,197	△ 19,749,316
資産合計	19,299,524	43,765,522	△ 24,465,998
II 負債の部			
1. 流動負債			
職員預り金	153,085	380,465	△ 227,380
前受金	743,626	90,000	653,626
流動負債合計	896,711	470,465	426,246
2. 固定負債			
退職給与引当金	11,339,537	12,682,978	△ 1,343,441
創立60周年記念事業準備金	3,004,660	9,439,291	△ 6,434,631
固定負債合計	14,344,197	22,122,269	△ 7,778,072
負債合計	15,240,908	22,592,734	△ 7,351,826
III 正味財産の部			
一般正味財産	4,058,616	21,172,788	△ 17,114,172
(うち特定資産への充当額)	0	0	0
正味財産合計	4,058,616	21,172,788	△ 17,114,172
負債及び正味財産合計	19,299,524	43,765,522	△ 24,465,998

正味財産増減計算書

平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 会 費 収 入			
会 費 収 入	20,600,000	21,630,000	△ 1,030,000
特 別 会 費 収 入	840,000	840,000	0
特 別 賦 課 会 費 収 入	7,834,695	6,815,374	1,019,321
会費収入計	29,274,695	29,285,374	△ 10,679
② 事 業 収 入			
フランクフルトフックフェア参加収入	16,573,933	20,727,613	△ 4,153,680
国 際 交 流 基 金 預 託 金	15,130,903	13,595,502	1,535,401
国 際 フ ッ ク フェ ア 参 加 収 入	610,319	1,219,965	△ 609,646
海 外 視 察 団 参 加 事 務 手 数 料	0	625,000	△ 625,000
事業収入計	32,315,155	36,168,080	△ 3,852,925
③ 雑 収 入			
受 取 利 息	116,682	52,304	64,378
雑 収 入	44,840	50,760	△ 5,920
雑収入計	161,522	103,064	58,458
経常収益計	61,751,372	65,556,518	△ 3,805,146
(2) 経常費用			
① 事 業 費			
フランクフルトフックフェア参加費	20,835,727	24,361,684	△ 3,525,957
目 録 発 行 費	291,201	237,670	53,531
国 際 交 流 基 金 預 託 金	15,751,284	17,916,505	△ 2,165,221
ODA フ ッ ク フェ ア 参 加 負 担 金	158,040	170,930	△ 12,890
国 際 フ ッ ク フェ ア 参 加 費	6,311,552	7,303,724	△ 992,172
会 報 発 行 費	454,495	704,465	△ 249,970
東 京 国 際 フ ッ ク フェ ア 参 加 費	598,183	316,477	281,706
調 査 費	1,255,697	1,215,349	40,348
渉 外 費	1,072,379	803,050	269,329
事業費計	46,728,558	53,029,854	△ 6,301,296
② 管 理 費			
給 与 手 当	20,959,000	26,858,000	△ 5,899,000
退 職 給 与 引 当 金 繰 入	5,377,518	0	5,377,518
福 利 厚 生 費	3,752,613	4,627,092	△ 874,479
旅 費 交 通 費	851,570	732,570	119,000
通 信 運 搬 費	1,175,971	1,198,797	△ 22,826
印 刷 費	162,912	196,932	△ 34,020
会 議 費	1,572,806	1,720,683	△ 147,877
一 般 広 告 費	387,449	394,485	△ 7,036
慶 弔 費	5,500	6,500	△ 1,000
賃 借 料	2,134,440	2,134,440	0
水 道 光 熱 費	199,080	199,080	0
租 税 公 課	70,000	131,300	△ 61,300
保 険 料	22,477	21,767	710
消 耗 品 費	656,340	426,611	229,729
雑 費	972,234	986,780	△ 14,546
減 価 償 却 費	222,898	338,304	△ 115,406
管理費計	38,522,808	39,973,341	△ 1,450,533
経常費用計	85,251,366	93,003,195	△ 7,751,829
当期経常増減額	△ 23,499,994	△ 27,446,677	3,946,683

科目	当年度	前年度	増減
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
特定事業のための取崩収入	6,434,631	20,042,213	△ 13,607,582
経常外収益計	6,434,631	20,042,213	△ 13,607,582
(2) 経常外費用			
固定資産廃棄損	48,809	0	48,809
経常外費用計	48,809	0	48,809
当期経常外増減額	6,385,822	20,042,213	△ 13,656,391
当期一般正味財産増減額	① △ 17,114,172	△ 7,404,464	△ 9,709,708
一般正味財産期首残高	21,172,788	28,577,252	△ 7,404,464
一般正味財産期末残高	4,058,616	21,172,788	△ 17,114,172
II 正味財産期末残高	4,058,616	21,172,788	△ 17,114,172

財 産 目 録

平成22年3月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
現金手元有高	292,879		
当座預金			
三菱東京UFJ銀行神保町支店	480,241		
三井住友銀行神田支店	27,507		
普通預金			
文化産業信用組合本店	40,076		
三菱東京UFJ銀行新宿西支店	35,800		
三井住友銀行神田支店	6,426,651		
同上（納本口）	739,251		
郵便貯金	114,739		
	小計	8,157,144	
未収入金	2,670,000		
仮払金	2,694,499		
流動資産合計		13,521,643	
1. 固定資産			
(1) 特定資産			
創立60周年記念事業準備預金			
普通預金			
文化産業信用組合本店	4,660		
定期預金			
文化産業信用組合本店	3,000,000		
	小計	3,004,660	
特定資産合計	3,004,660		

(2) その他固定資産			
什器備品			
NECパソコン・VC550J	1台	1	
応接セット	1台	1	
NECパソコン一式	1台	1	
東芝パソコン一式	1台	1	
FAXプリンターコピー	1台	1	
デスクトップパソコン一式	1台	62,460	
ノートPC・無線LAN一式	1台	166,779	
WinXP CD	1ヶ	81,950	
	小計	311,194	
敷金			
日本出版貿易(株)		1,632,027	
定期積金			
文化産業信用組合本店		330,000	
出資金			
文化産業信用組合本店		500,000	
その他固定資産合計		2,773,221	
固定資産合計			5,777,881
資産合計			19,299,524
II 負債の部			
1. 流動負債			
職員預り金			
源泉所得税・住民税・社会保険料		153,085	
前受金			
鹿嶋国際著作権事務所		10,000	
シーエムシー出版		215,223	
一万年堂出版		80,000	
文藝春秋		195,328	
日本聖書協会		243,075	
	小計	743,626	
流動負債合計			896,711

2. 固定負債			
退職給与引当金	11,339,537		
創立60周年記念事業準備金	3,004,660		
固定負債合計		14,344,197	
負債合計			15,240,908
正味財産			4,058,616

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法について

該当なし

(2) 固定資産の減価償却について

什器備品

定額法、直接法による減価償却を実施している。

(3) 消費税について

消費税の会計処理については、税込み方式にしている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
小 計	0	0	0	0
特定資産				
退職給付引当預金	12,682,978	0	12,682,978	0
創立60周年記念事業準備金	9,439,291	0	6,434,631	3,004,660
小 計	22,122,269	0	19,117,609	3,004,660
合 計	22,122,269	0	19,117,609	3,004,660

3. 担保に供している資産は次の通りである。

該当なし